

情勢報告（平成 27年 12月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A土佐くろしおサヤインゲン部会出荷始め総会



11月24日、販売課2階会議室にて、J A土佐くろしおサヤインゲン部会の出荷始め総会が開催され、生産者24名が参加しました。

農業改良普及課は、部会の目標収量(5.0t/10a)及び栽培改善方策をもとに、直近の気象条件と今後の管理について説明しました。また、安全安心点検シートを集計するとともに内容を見直し、次作に役立ててもらよう指導を行いました。

今後は個別巡回や現地検討会を開催し、収量・品質の向上に取り組みます。

集落の農地を守るために－津野町集落営農先進地視察研修－



11月24日、津野町集落営農塾の一環として先進地視察研修が開催され、農家20名、関係機関4名が参加しました。

農業改良普及課は、塾参加者の意向をもとに、中山間地で農地を守っていく仕組みづくりについて研修を行うため、愛媛県大洲市「樫谷棚田保存会」、愛媛県東温市「(農)アグリすのうち」の2ヶ所の視察先を提案しました。

参加者は「飼料米はどうか?」、「若い後継者の募集は?」など積極的に質問を行っていました。

今後は、第2回津野町集落営農塾の開催に向け、内容、資料作りを支援するとともに、組織化を志向する集落の取り組みを支援していきます。

農薬の安全使用のために－直販所ネットワーク交流会－



11月25日、J A土佐くろしお資材センターふれあいにおいて、須崎・津野山・中土佐地区農産物直販所安全安心ネットワーク交流会を開催し、関係する直販所運営者7名、J A職員5名、合計12名が参加しました。

農業改良普及課は、農薬の適正使用や生産履歴記帳の必要性について説明しました。また、成果を上げている直販所から効果的な取り組みを報告してもらい、参加者で情報を共有しました。参加者から、「安全安心の取り組みはもちろんだが、ネットワークを活かして直販所の将来を考える場も持ちたい。」との意見も出されました。

今後は、今回配布した27年度版生産履歴台帳の活用状況を確認していきます。

須崎地区第2回環境制御技術講演会を開催しました



11月26日、J A土佐くろしお本所にて、全国農業協同組合連合会の吉田氏を講師に招いた講演会を開催し、生産者19名、関係者40名の計59名が参加しました。

講演ではトマト栽培を例に挙げ、植物生理と環境制御技術を活用した栽培管理方法や雇用管理など、増収に向けた幅広い課題が紹介されました。本講演会は農業改良普及課と管内の2つの研究会との共催で、生産者の環境制御技術に対する意識向上を図ることができました。

今後も管内各J Aや研究会と協力しながら、増収を目指した環境制御技術の普及推進を行っていきます。

「四国の花」商談会



11月26日、サンメッセ香川で「四国の花」商談会が開催され、管内からは、JA土佐くろしお花き部会、(有)笹岡花卉農園、佐竹農園が出展しました。農業改良普及課は、当日のブース作りや来場者への各品目のPRの支援を行いました。

出展者は、来場した市場関係者や小売店経営者等と、市場の情勢や花の使い方提案、出荷時期等についての情報交換を行いました。

今後も定期的に品目毎の実需者ニーズを把握し、栽培指導に活かします。

JA土佐くろしおニラ部会現地検討会



12月7日、JA土佐くろしおニラ部会現地検討会が須崎市と中土佐町の現地ほ場で開催され、生産者16名が参加しました。

農業改良普及課は、増収効果が期待される有望品種と電照栽培の実証結果について説明しました。参加者から、新品种や新技術の早期確立に期待する声が聞かれました。

今後も実証ほを活用した現地検討会を定期的に開催し、生産者とともに新技術の早期確立に取り組みます。

第2回須崎地区環境制御技術普及推進会議の開催 ～より使いやすい技術を目指して～



12月17日、県農業担い手育成センターにおいて、須崎地区環境制御技術普及推進会議（第2回）を開催し、36名が参加しました。

同センターの実証ほ場を視察した後、農業改良普及課が、重点プロジェクト課題の進捗状況や主要品目での環境制御技術への取り組み等について報告し、農家代表委員に取り組み方の改善点等の意見を伺いました。

今後とも、農家が利用しやすい技術の確立を目標に、農家の意見を伺いながら事業を進めていきます。

須崎地区ミョウガ担当者会（第2回）の開催



12月18日、須崎総合庁舎において、須崎振興センター管内（高南農業改良普及所管内を含む）のJA営農指導員及び普及指導員によるミョウガ担当者会を開催し、12名が参加しました。管内は県内のミョウガ栽培面積の約8割を占めることから、産地間の情報交換や指導のレベルアップを目的に今年度から開催しています。当日は、農業振興センターから天敵によるハダニ類やアザミウマ類防除の取り組み状況、ハウス内環境測定による温湿度管理等の実態などを報告し、参加者から質問や意見が多く出され、活発な担当者会となりました。

今後も、指導者間での情報共有を積極的に行いながら、ミョウガの栽培技術の向上につなげていきます。